

2021年6月22日

報道機関 各位

## 多文化社会学部教員が関わる 『今と昔の長崎に遊ぶ』の出版について

長崎の地に住んだ人びとがどのように長崎の文化を形作ってきたのか、長崎の歴史・文化・経済・言語・哲学など様々な分野の研究者 17 人が長崎の隠された魅力に迫ります。

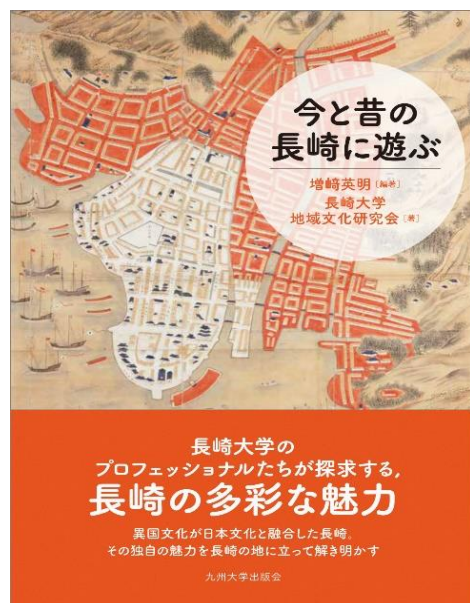
本書は、長崎大学の研究者 17 人が執筆しています。古くから諸外国との窓口の役割を果たしてきたこの長崎をグローバルな視点から、その魅力と本質に、長崎の歴史・文化・経済・言語・哲学などの様々な分野のプロフェッショナルが解き明かしていきます。多文化社会学部は、長崎の地域研究を人文社会学の立場から、行う教員が多く所属しており、その成果として、歴史学・考古学・文化人類学・言語学の分野から 5 名が本書に関わっています。

### 【多文化社会学部教員 担当箇所】

- 第 3 章 近世貿易都市長崎の特質を考える—尾曲がり猫はどこからきたのか— 木村直樹 著
- 第 4 章 長崎の陶磁器にみるグローバル化 野上建紀 著
- 第 5 章 交響する長崎の中国文化—おどり、りょうり、まつり— 王維 著
- 第 8 章 出島オランダ商館で書かれた最後の日本語文典の成立とその背景 トート・ルディ 著
- 第 14 章 長崎の世界遺産—「潜伏キリシタン関連遺産」の問題点と今後の課題— 才津祐美子 著

### 【本書概要】

- 編著者(著者): 増崎英明 編著 / 長崎大学地域文化研究会 著
- タイトル: 今と昔の長崎に遊ぶ
- 出版社: 九州大学出版会
- 発売日: 6 月 23 日



【本リリースに関するお問い合わせ先】 長崎大学 多文化社会学部 (総務)

Tel: 095-819-2934

E-mail: hss\_ryugaku@ml.nagasaki-u.ac.jp

**【執筆者】\*執筆順**

増崎 英明 長崎大学附属図書館 前館長  
前田 桂子 長崎大学教育学部 教授  
木村 直樹 長崎大学多文化社会学部 教授  
野上 建紀 長崎大学多文化社会学部 教授  
王 維 長崎大学多文化社会学部 教授  
中島 貴奈 長崎大学教育学部 准教授  
吉良 史明 長崎大学教育学部 准教授  
Toet Rudy 長崎大学多文化社会学部 助教  
南森 茂太 長崎大学経済学部 准教授  
田口 由香 長崎大学教育学部 准教授  
山口 敦子 長崎大学水産学部 教授  
安武 敦子 長崎大学工学部 教授  
赤澤 祐子 長崎大学原爆後障害医療研究所 准教授  
才津 祐美子 長崎大学多文化社会学部 教授  
大平 晃久 長崎大学教育学部 准教授  
全 炳徳 長崎大学情報データ科学部 教授  
出水 享 長崎大学工学部 技術専門職員

**【目次】**

第1章 巨樹の記憶—二人のルイス—  
第2章 ポルトガル人が聞いた室町末期の長崎ことば  
第3章 近世貿易都市長崎の特質を考える—尾曲がり猫はどこからきたのか—  
第4章 長崎の陶磁器にみるグローカル化  
第5章 交響する長崎の中国文化—おどり、りょうり、まつり—  
第6章 長崎八景—漢詩から長崎版画へ—  
第7章 長崎の鎮守諏訪神社  
第8章 出島オランダ商館で書かれた最後の日本語文典の成立とその背景  
第9章 長崎における海軍伝習  
第10章 幕末期における長崎のグラバー商会と志士たち—長州藩・薩摩藩のイギリス留学—  
第11章 倉場富三郎が遺した日本西部及南部魚類図譜(通称:グラバー図譜)  
第12章 長崎に誕生した西洋式病院—長崎小島養生所—  
第13章 長崎医科大生たちの—一九四五年  
第14章 長崎の世界遺産—「潜伏キリシタン関連遺産」の問題点と今後の課題—  
第15章 軍事都市としての長崎  
第16章 長崎の岬を3Dで表現してみる  
第17章 軍艦島の今と未来